



校長だより

～なかまとともにのびよう～



天美小学校 HP

令和5年7月号

校長 高橋 義浩

人との出会い

3年に及ぶコロナ禍で絶たれてしまった「人との出会い」。今、総合的な学習の時間を通して、改めて「人との出会い」をつくりなおしています。「人は人の中で育つ」とも言われますが、多くの人との出会いが、子どもたちのこれからの人生を、より豊かなものにしてくれると思います。出会った人の「生き方」から多くのことを学び、自分自身の「生き方」を考えてくれたらと思います。(4年生、5年生、6年生の取組の様子を天美小学校のHPから抜粋して紹介します)

【4年生】聴覚に障がいのある芝田さんに来ていただき、お話を聞かせていただきました。ご自身の体験やクイズを通して、子どもたちは、「聞けないことは見た目では分からない」といったことを感じていました。その後もクイズ形式で、「買い物やスーパーなどで不便なことはあるか」「災害が起こったとき、どうするのか」などについて考え、聴覚に障がいのある方が困っている時に「自分たちができること」を知りました。あいさつの手話も教えていただいたりしながら、子どもたちも一生懸命取り組んでいました。



【5年生】今日は、中国出身の栗田さんに来ていただき、お話を聞かせていただきました。栗田さんは、いわゆる中国残留孤児の3世として、小学生の頃に日本に来了ました。そこからは、言葉がわからず大変苦労されたお話や、学校の先生に助けてもらって、ものすごく感謝していることなどを話してくださいました。子どもたちからは、中国のことに関する質問の他に、感想として「(栗田さんの生き方を聞いて)自分も一言を大切にしたいと思いました」と話す子どももいました。たくさんの子どもたちが感想を言おうと、手を挙げていました。



【6年生】6年生の総合的な学習では、2学期の広島修学旅行に向け「平和学習」に取り組んでいます。昨日は、tomoni.というユニットで活躍されている宝本さんと吉川さんに、平和学習の一環で出前授業に来ていただきました。お二人には、「自分の気持ちや友だちの気持ちに寄り添い、共感することを大切にする」ワークショップを行っていただきました。自分でも気付いていなかった気持ちやニーズを、周りの友だちに考えてもらうことで、新しい発見や気づきがありました。



「学校ボランティア」さんのご紹介 3

天美小学校には、地域の方々をはじめ、多くの方が「学校ボランティア」として関わってくださっています。前々回より、「校長だより」で何回かに分けて紹介させていただいています。

今回は、月に一度水曜日に「絵本の読み聞かせ」「紙芝居」「ストーリーテリング」をしてくださっている「松原市民図書館ボランティアの会」の皆様、そして、定期的に校舎西館入口（職員下駄箱）にお花を飾っていただいている、「牧嶋さん」「岡島さん」をご紹介します（以下、それぞれで書いていただいた活動紹介文です）。



私たちは、松原市民図書館ボランティアの会に所属しているメンバーです。天美小学校には、東校長先生が赴任されたときに声をかけていただき、それ以来、月に1回水曜日の放



課後にランクルームで、「おはなし会」をしています。「おはなし会」は、絵本・紙芝居・ストーリーテリングを毎回しています。季節に合ったものや、子どもたちの想像力をふくらませ、楽しめるものを選んでいきます。子どもたちの「おもしろかったー!」「また、次も来るよ!」の声に励まされ、これからも続けていけたらうれしいです。

（松原市民図書館ボランティアの会 砂山 雅江）



天美小学校に花を生けるようになって、30年以上になると思います。若いときに花を習って、平成になってインストラクターの資格を取り、何かお花を通してできることはないかと思っていました。天美小学校は私たちの子どもが卒業した学校であり、花を飾っていた

だいたらいいなーとの思いで、季節の花や小さな花器を作ってサークル花を置いたり、水盤に生けたりしています。今年一月には、一年生を対象に「花体験」を授業の中でさせていただいたことは、とても良かったです。多くの方が目にするとお花で心が和み、心が癒やされ、教育の場が美しく良い環境になればとの願いをもって生けて

います。先生方をはじめ、父兄の方、子どもたち、いつも喜んでくださることがうれしくて、多くの方たちとの出会いがとても楽しいです。大切にしていることは、生活の中で「美を楽しむ」、学校や友人、知人共々美を楽しんで、コミュニケーションが図れたらいいなと思います。

（牧嶋 博子・岡島 春栄）

